

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成19年 5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4670103474
法人名	有限会社 にこやかライフ
事業所名	グループホーム さくら荘
所在地 (電話番号)	鹿児島市下福元町5853-1 (電話)099-284-2330

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21鹿児島
所在地	鹿児島県鹿児島市真砂本町21-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年5月15日

【情報提供票より】(平成 19 年 5 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 9 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数(2ユニット合計)	16 人	常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	14.6 人

(2)建物概要

建物形態	単独		
建物構造	木造造り		
	2階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名	
要介護1	3 名	要介護2	7 名			
要介護3	4 名	要介護4	3 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	85 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・ 大勝病院 ・ まなべ内科クリニック ・ 平川歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中に建つ木造二階建ての2ユニットのホームである。近くには鹿児島国際大学があり、学生ボランティアが訪れることがある。「利用者の地域で暮らし続けることを支援・地域との支えあい」を、地域密着型グループホームの本来の機能のサービスとして町内への働きかけを積極的に実施し、町内会加入や町内行事に参加するなど、さまざまな働きかけで地域に親しまれるホームの実現に向けて取り組んでいる。職員の現場研修にも熱心で、グループホーム同業者間の交流や研修など、ネットワーク作りも積極的に取り組んでいる。利用者や地域のニーズに応じて「看取りの介護」に職員が心を一つにした取り組みを契機に、ますます意欲的に介護技術の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、運営理念を重要事項説明書へ記載するようにこのことから、この度はしっかりと明記がしてある。2点目の改善課題の市町村との関わりでは、ホームの運営やサービス提供などの相談に市町村担当者で連絡しあい、運営上の相談に積極的な関わりを持っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は運営者・管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組み、サービス向上に役立っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では外部評価の報告・グループホームの運営状況・事故防止の取り組み・行政の実地指導の報告を行い、参加者からは外部の視点を通して運営やサービス提供への意見が出されている。「今年度は個々のテーマを深く掘り下げて検討し積み上げ、委員の選定にも工夫していきたい。」とのことである。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回の家族会・2ヶ月1回の運営推進会議への参加をお願いし、一人でも多くの参加者の下、ホーム運営についての意見をもらうことや、面会の際、ホーム側がすすんで声を掛けて家族の意見・不満・苦情を聞き対応するよう努めている。出てきた意見等は運営者・管理者・職員で検討し対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	時間をかけて地域とつながり・馴染みの関係を作っていくと日常的に町内会へ加入し、町内活動の行事・清掃作業などへ参加し、またホーム行事へも参加してもらうなど相互の関係が生まれつつある。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で討論し、地域で住民の一人として生活してきたことを、今後もその生活が継続できるよう支えていくケアの実践として、独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時・申し送り時・定例会議等の機会を捉えて意識付けと理念の掘下げを行い、「自分がしてもらって一番いいと感じるケアをしたい」と日々意識している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入し、地域の行事(夏祭り、敬老会、公園清掃)へ参加し交流しており、今年度は園の行事への町内会からの参加が得られるよう働きかけ、地域とのつながりを深めようと取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は定例会で報告し、改善に向けて具体案の検討や実践に取り組んでいる。自己評価についても職員全員で取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では外部評価の報告・グループホームの運営状況・事故防止の取り組み・行政の実地指導結果などを報告し、参加者からは外部の視点をとおして運営やサービス提供への意見をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口に出向き、運営・サービス提供上、法令等に抵触しないようこまめに相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族の全世帯に対して、月1回はホーム便り・3ヶ月1回は金銭出納の写しを送付しており、利用者個々の近況や健康状態などは、家族の面会時や手紙・写真で報告している。職員の異動についての報告は面会時などに紹介しているものの、便りなどでの早めの報告はしていない。	○	少人数の顔の見える関係、馴染みの職員を中心に事業所との信頼関係が大切にされる中、職員の異動は家族にとって大変重要な出来事と受け止め、早急なる家族への連絡が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、管理者・計画作成者との面談ができるよう家族へもお願いし、職員も家族が帰る際に声かけを行い、面会の感想を含めて要望を聞いている。相談・苦情を外部へ表せることについては入居時に説明し、玄関に相談苦情の担当者名を掲示してある。出された意見・相談については、代表者・管理者・スタッフなどで話し合い対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員の配置は固定化させ、馴染みの関係でのケアを重視している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、介護の質向上には研修が最も重要であると考え、自己研鑽の大切さを日頃から説き、外部研修への参加や個人の資格取得にも積極的に協力的である。またOJTも計画的に実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、従来から積極的に同業者間の交流や研修会を実施しており、谷山地区グループホームとしてネットワークも形成している。全国の会へ加入しており、今年度北海道で開催の研修会へも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人本位で利用決定が行われることを大事にして、体験入所・見学を通して納得・馴染みを持ってもらうようにしている。また、その準備のできない時は入居後、しばらく家族に頻りに面会してもらい早く馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の心の中にある喜び・期待感・不安・悲しみ・苦しみをよく知って、感情を受け止めて、暮らしの中で思いを分かち合える関係を目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや希望をよく聞き、そして話しかけ、表情の観察など言葉以外の訴えの把握にも努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を聞き取り、ケア会議を開き、職員や関係者が意見を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人及び家族の意向や状況を、3ヶ月ごとにモニタリングし、変化がなくとも6ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。途中で状況の変化があれば、随時、介護計画の見直しを行っている。	○	本人や家族の状況は刻々と変化していくことから、状況に即した介護計画とするには、柔軟且つ臨機応変な対応が求められる。個々の変化の兆しに予防的に対応するために、より適切な状況把握と計画へのアイデアが必要である。そのためにも、1ヶ月1回のモニタリング実施に向けての努力が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じて病院受診の送迎や医療連携体制を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を聞いて、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、受診の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最近、看取りの事例があり、終末期ケアの指針に沿って家族・医師・看護師・職員で綿密に連携し、家族の思いや状態変化の度に話し合い、関係者が同じ思いを共有しケアを提供できるように取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝礼や定例会などの度に職員間で意識向上を図り、管理者は、日々のケアの中でプライドやプライバシーを損ねるようなケアとならないように注意をはらっている。個人の記録物は利用者の目に入らないように取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一定のスケジュールに無理に合わせるのではなく、利用者一人ひとりの、その日その時の状態や意向に合わせて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好物や希望を取り入れて準備している。野菜を切ったり・盛り付けたり・配膳・下膳・食卓拭きなど、できるところは行動を共にして、食事への楽しみを持ってもらっている。利用者は「食事がとても楽しみです」と話している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞きながら、それぞれの入浴ペースを配慮して、順番・時間を決めて入浴している。入浴回数は週3回としているが、回数は利用者の希望に合わせて増やしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個々の希望を聞いたり、過去の経験・生活歴を考慮して、食事の準備・園芸・掃除・洗濯・生け花・塗り絵・俳句などの支援をしている。ホーム生活を楽しんでいる様子が伺える。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩を心がけ、ストレスをためないように配慮している。利用者の習慣や楽しみごととして、弁当持参のお花見やソープ流しの外食など実施し、五感で季節を感じてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の外出の癖や生活のパターンを把握し、職員の作業位置を確認、連携の上、日中は施錠をせず自由な暮らしを見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の協力を得て、年2回利用者と共に訓練している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体の食事量・栄養・水分が摂れているか、それぞれのおおよその量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ドアの開閉音やものの倒れる音、職員の大声や笑い声に注意を払っている。居室に花を生けて季節感を感じてもらえるよう、また毎朝の居室の掃除を利用者にも参加してもらい、快適な環境作りを行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使い慣れたものや好みの物が家族によって持ち込まれ、家族の写真や手作りの作品が飾られており、居心地よく過ごせるように工夫している。		